



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.173

2019.3.15

発行：浜松ユネスコ協会

発行人：会長 小島暉壯

TEL (053) 463-0458

FAX (053) 463-0458

編集(広報委員会)阿部行俊

第9回 未来遺産「私のまちのたからもの」展 表彰式

未来遺産・個性輝く心象風景

1月20日(日) 於：えんてつホール

ユネスコの「未来遺産」とは、長い歴史と伝統のもとに豊かに培われてきた地域の自然や文化や歴史を子供たちに、伝えるための運動です。浜松ユネスコ協会では、子供たちが100年先まで残しておきたい「地域のたからもの」に目を向け学ぶことによって、今ここに生きている喜びを知り、地域を育てていく使命感や情熱の醸成を願って開催しています。第9回となる本年度は、564作品の応募がありました。



県教育長賞 県教育委員会教育部長 鈴木一吉氏 浜松市立可美中学校2年 中塚美翔さん

「私のまちのたからもの」作品展示会

1月16日(水)～21日(月) 於：遠鉄百貨店ロゼ



浜松市長賞 「水路沿いの自然」 (浜松市南区富屋町)



浜松市立東陽中学校3年
上仲間たさん



私は小学生までフィリピンで生活していました。中学生になって浜松に来て、美術部で活動するようになりました。写生大会で「浜松城」を見て感動しました。去年はその時に見た浜松城の「門」を描きました。浜松城を作った徳川家康が日本の歴史の重要人物であることを知り、そんな歴史をみんなが大切にしているのだと思いました。

私が今回描いたのは、学校近くの用水路の風景です。水路にそって木が植えられ、草が茂り、魚が泳いでいます。豊かな自然を感じることでできる場所になっています。朝、青い空に木や草の優しい緑色が心を落ち着かせてくれます。夕方には水路の優しい風が心を和ませてくれます。

部活で写生大会に行くときも、また東陽中の美術部が取り組んでいる学区の小学校の放課後児童会で劇を披露する活動のときも、私たちはこの用水の横を通ります。

私は風景を描きながら、風景と人との関わりについて考えました。そして、この風景を大切に、未来へつなげていきたいと新たに思いました。(要旨抜粋)



浜松市長賞 「光禅寺の大日如来坐像」 (浜松市東区大蒲町)

浜松市蒲小学校6年 延本佳子さん

1200年もの長い間、雨や風に耐えながら人々を守ってきたようで、迷える人々を優しく見守ってくださるような、お顔に見えます。

また、光禅寺には、蒲冠者(かばのかじゃ)源範頼(みなもとの のりより)ゆかりの蒲桜も大切に育てられています。(コメントより抜粋)



<会長挨拶>

～平和な世界を作るための未来遺産～

浜松ユネスコ協会 会長 小島逞壮 氏

皆さんが心を込めて描いてくれた絵やコメントに胸を打たれます。皆さんの見つめている、100年後まで残したいこの自然や文化や歴史の中に、未来の幸せや世界の平和がかかっていると思います。先人の知恵や教訓を未来へつなげるのは貴方たちです。

今年度の中学生の市長賞には、東陽中学校の上仲間たさんが選ばれました。上仲さんはフィリピンで生まれ、3年前に日本にきました。広い視野の中で、この浜松になじんで市長賞に輝いたことを嬉しく思います。その他の作品も、いずれ劣らぬ素晴らしい作品の数々でした。(要旨抜粋)



＜来賓挨拶＞

～自然や文化を将来の世代に守り継ぎたい～

浜松市副市長 鈴木伸幸氏

みなさんの作品は、地域の文化や自然に着目して自分たちの「たからもの」として位置づけられていました。これからも将来の世代に守り継いでいきたいという気持ちがしっかり表れていました。

昨日、市長賞になった2作品が描かれた場所に行ってきました。大蒲町光禅寺では、残念ながら如来像は拝見できませんでしたが、境内の静かな佇まいに心が洗われるようでした。

東陽中学校の水路では、描かれた季節が異なり、全く同じ情景ではありませんでしたが、穏やかな雰囲気を感じることができました。

段子川や佐鳴湖は、私が子供の頃に釣りをして慣れ親しんだところです。その場所は、現在も関係者の努力のおかげで、生かされ守り継がれています。自然や文化に着目し、関心をもって将来の世代に守り継いでいきたいという思いはみなさんと同じです。（要旨抜粋）



～この浜松で自分の夢の実現を～

浜松市教育長 花井和徳氏

私は、みなさんの作品とコメントを読むのが楽しみです。それは、みなさんの作品を通して、私の知らなかった素晴らしい自然や文化を知ることが多々あるからです。

みなさんが心を込めて描いた「自分のたからものだよ。」という気持ちをいつまでも大切にしてください。友達が描いた「たからもの」も自分の「たからもの」として大切にしてください。これからも、浜松の「ひと・こと・もの」を観点にして新しい「たからもの」を増やしてほしいと思います。

この受賞を機に、みなさんの「たからもの」が100年続くために、どんな取り組みができるか将来の自分に重ね合わせながら考えてください。そして、もっと浜松のことが好きになり、この浜松で自分の夢を実現して生きていくことを期待しています。（要旨抜粋）



第7回科学教室 「宇宙への挑戦 & かわなの自然(冬)」

冴えわたる星に 感嘆の声

12月15・16日 於:かわな野外活動センター

天体教室では、望遠鏡や双眼鏡を使って、アンドロメダ銀河、M45(すばる)などを観察しました。上弦の月でクレーターの様子をじっくりと観察することができました。また、全天を肉眼で観察し、夏の星座、



秋の星座がまだ見られること、カシオペア座を手掛かりに北極星を見付けられることなども確かめました。街中では見ることのできない星の輝きは、感動として子供たちの心に残っています。

翌日は、冬の自然を観察しました。葉が落ちた冬だからこそ見つかるものがあります。ヤマユガやウス

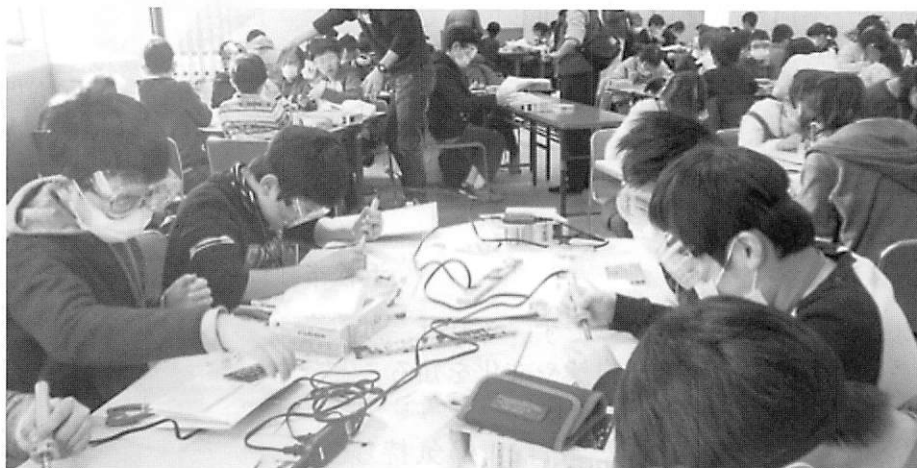
タビガの繭、やわらかい毛でおおわれたコブシの冬芽、じっと春を待つオオカマキリの卵のうなど、驚くほどたくさんの自然を見つけることができました。かわなの自然を心と体で感じた観察でした。教室生79名、家族51名の参加でした。（喜澤俊輔）

第8回科学教室 「ラジオを作ろう」

科学の楽しさや夢を感じる一歩

1月27日(日) 於:市民協働センター

物心がついたときから、当たり前のようにあるラジオやテレビ。電波って何だろう？どうして、音楽や声が伝わってくるのだろうか？多くの子供たちは深く考えたことはないと思います。



ラジオ作りの活動では、ラジオキットを組み上げていきます。ラジオの原理までは、当然理解することはできません。しかし、抵抗、コンデンサー、ダイオード、アンテナなど、どこかで聞いたことのある部品をつなぎ合わせると音楽や声が聞こえてくることの感動は大きいです。これを体感することは、すごい科学との出会いです。

これをきっかけに、子供たちの電子部品や電子回路への興味や関心が高まり、科学の楽しさや夢を感じる一歩となることを願っています。(阿部行俊)

第9回科学教室 「記念樹を植えよう & 閉講式」

記念樹が子供の成長を見守る

2月23日(土) 於:地域情報センター

毎年、最終の活動では自分の好きな木の実を植えます。スタッフが準備した木の実約20種。トチ・ミズナラ・イチイガシ・オニグルミなどが人気でした。山々の大樹も小さな木の実の発芽が第一歩です。修了生たちの成長が楽しみです。

本年度教室生108名
一人一人に修了証書
総修了生は3773名に!



閉講式では会長より修了証書が渡されました。また、本年度の皆勤者は35名でした。皆勤賞としてスタッフが準備した結晶質石灰岩(大理石)の標本が贈られました。



印刷のエキスパート

株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231(代) FAX 473-0778



遠州鉄道グループ

ホテルコンコルド浜松

閉講式 励ましの言葉

～ 一番大切な科学は、平和な世界をつくること ～

浜松ユネスコ協会長 小島逞壯 氏

昨日、宇宙探査機「はやぶさ2」が小惑星「りゅうぐう」へ着陸しました。すごい科学ですが、私たちの身近な周りにも科学があります。

ある日の朝、アメリカに住む女性がおかしなことに気付きました。それは、朝になっても鳥が鳴かないのです。彼女は必死に調べ、農薬が原因であることを知りました。「沈黙の春」です。そこから、世界の国々に環境庁という組織ができました。

私たちは日頃自然に驚いたり、感動したりすることがたくさんあります。

このようなささやかな出会いが科学する一歩なのです。どうぞ心の気付きを大切にしてください。

ユネスコの目指す科学は、人々を幸せにする科学です。みなさんなら出来ます。私は期待しています。（要旨抜粋）



～ 科学への興味を今後も育んでほしい ～

浜松市 創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長 藤田健次 氏

開講式で、みなさんの「科学する心・世界の平和を願う心」が深まることを期待することを話しました。この1年間で自然と直接関わり、感動したり学んだりしてきと思います。

みなさんから「本物を見たり触ったりして楽しかった。今まで知らなかったことをたくさん知ることができた。自然や生き物の命の大切さが分かった。身近なものに疑問を感じることの大切さを知った。」という感想をいただきました。この体験で膨らんだ科学への興味を今後も育んでほしいと思います。

来年度、浜松科学館がリニューアルオープンをします。子供たちの科学の拠点となる体験型施設を目指して準備をしています。（要旨抜粋）



～ 一人の人生では解明できない自然の奥深さ ～

浜松ユネスコ協会副会長 安藤隆敏 氏

科学の研究というのは子供の時代だけのものではありません。浜松市に住んでいて中学生の頃から昆虫のことを調べてきた人のことをお話します。

私より5歳年上の方です。彼は、北海道から沖縄まで様々な場所で採集したり、飼育したりして同じ種類のチョウでも地域や気温によって色や模様の違いがあることを調べていました。静岡県の自然観察指導員としても活躍されました。

ところが、かなり難しい病気にかかってしまったので、これまで調べたことを私に伝えておきたいと連絡がありました。一緒に山にも出かけましたが、どんな昆虫が、どこでどのように生きているのかを正確に知っていることに驚かされました。彼の標本の多くは、静岡市にできた「ふじのくにミュージアム」に寄贈されましたが、今も病院で、今度退院できたら、どんなことを調べようかと考えています。一人の人生ではとても解明できない自然の奥深さに挑戦し続けているのです。

先程渡した修了証書には科学する人の心構えを示しています。本物に触れ、生活の中でもこれまで培ってきた科学する心を益々発揮して、よりよい自分づくりに挑戦してほしいと思います。（要旨抜粋）



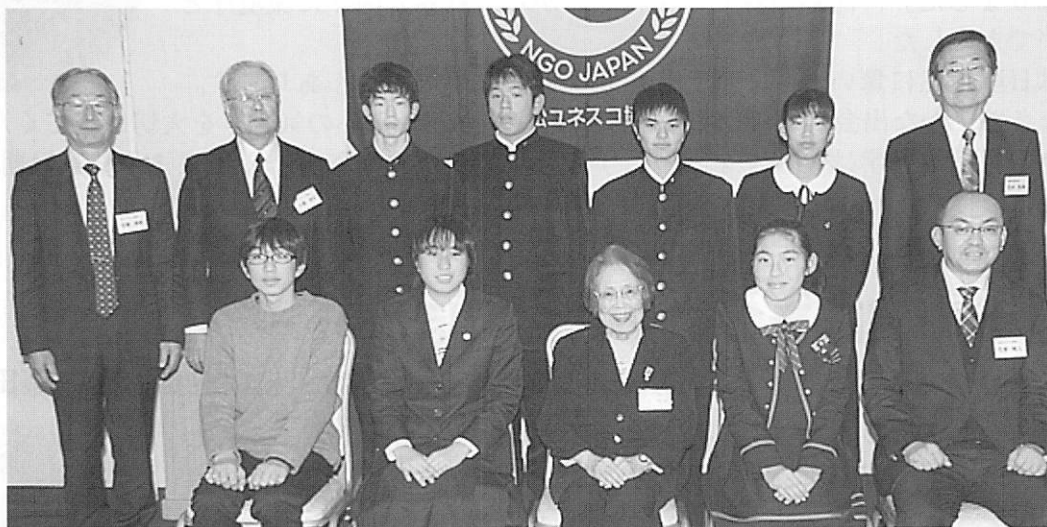
第20回 浜松ユネスコ山本自然科学賞 表彰式

学ぶ楽しさや充実感に溢れた自由研究

2月2日(土) 於:ホテルコンコルド

浜松ユネスコ山本自然科学賞は、当協会の顧問 山本和子さん御夫妻から、児童・生徒の自然科学に対する研究心の向上を図るためにと当協会に寄付された個人の浄財を基金として1999年5月に設立したものです。

「学ぶ楽しさや充実感を実感できている自由研究」を基準に選考を行い、本年度は、正賞3点、奨励賞4点が選出されました。



受賞者のみなさん と 山本和子氏(前列中央)

★★ 山本自然科学賞 正賞 ★★

「見えない光を集める」

浜松市立新津小学校 6年 石塚寛人さん

太陽から出る光について、4年間研究しています。今年度は紫外線や赤外線に焦点を当てました。

どろだんごの研究③ ～ピカピカで強くなるのか?～ 浜松市立内野小学校 6年 中村楼沙さん

3年間のどろだんごの研究です。だれでもする遊びですが、最強のどろだんごを極めたいと科学の目で取り組んでいます。

太陽で料理することができるのか 7 ～私は温度を支配する 3～ 「真夏に温度を下げる」

静岡県立浜松西高等学校 中部3年 大山祐花さん

「自然エネルギーを如何に効率よく集め、生活に役立てられるか」という視点で取り組み、7年目です。

<会長挨拶> ユネスコと山本先生の夢

浜松ユネスコ協会長 小島逞壯氏



74年前、戦争が終わる前から、イギリスとフランスは国連の中に平和な機関を設けようと努力していました。最初はUNESCOだったのです。そして、戦争が終わりかけたとき、その計画を出そうとしたら、とんでもないことが起こったのです。人類初の核兵器が広島と長崎に落とされたのです。悪魔のような原子爆弾が何十万人もの市民の命を奪いました。そこで急に、科学の脅威を未来につなげるために、サイエンスのSを入れユネスコ(UNESCO)が誕生したのです。

ユネスコ活動をなさっていた山本先生ご夫妻は、科学は平和を作っていくものでなくてはならない。そのために青少年の科学を応援するというので、たくさんのお金を基金として寄付してくれたのです。山本先生が抱いた平和な科学を心に置いて、食料、エネルギー、防災の問題など人々のための研究を通して、平和に貢献する人になってください。(一部抜粋)

＜来賓挨拶＞

～ たゆまぬ自己研鑽、自らを磨くという姿勢が大切 ～

浜松市教育長 花井和徳 氏



毎年思うことは、皆さんが毎年継続して研究を進め、そこから得られた課題を翌年につなげているという姿勢です。本当に「継続は力なり」と言いますが、継続するからこそ見えてくる課題、新たな視点というものがあると思います。みなさんは、常に継続をして、たゆまぬ自己研鑽、自らを磨くという姿勢を大事にしていたのだと思います。

自分の生き方に「科学が人間の役に立つ」という視点を据え、浜松、日本、世界に何か人類のためになること、それも地球全体を考えて、科学をする目をもって立派な大人に成長していくことを期待しています。（一部抜粋）

2019年 浜松ユネスコ協会新春のつどい

2月2日(土) 於:ホテルコンコルド浜松

山本自然科学賞表彰式後、恒例となっている新春の集いが開催されました。衆議院議員塩谷立氏からメッセージが披露され、岡本肇氏の乾杯で親睦会がはじまりました。



衆議院議員塩谷立氏（代理：青島大 氏）

これまで長きに渡る活動の中で、途上国への教育支援や医療、食料の支援運動に心が温まります。国内外の文化や自然を守り伝える世界遺産運動や地域遺産運動、日本の文化を未来に繋ぐ未来遺産運動などは、ユネスコの理念である平和への思いや故郷や国の誇りになるものを大切にする心が育まれたこととうれしく思います。

＜塩谷立氏からのメッセージ 一部抜粋＞



顧問 岡本 肇 氏

浜松ユネスコ協会の活動は見える形で行われ、どの活動も会場の雰囲気が温かいです。表彰式の会

場で受賞者と家族や教師と一緒に写真撮影を大切にしている姿を見るとさすがユネスコだと感じます。（要旨抜粋）

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気を是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.scien.ed.jp

第4回親子公園探検隊 「冬の自然観察会 in 佐鳴湖公園」

野鳥、越冬昆虫の観察に最適

2月2日(土) 於:佐鳴湖公園



澄み切った青空の下、新鮮な空気を吸いながら、野鳥や越冬昆虫などを観察しながら歩きました。

佐鳴湖公園には、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種類のガラスが生息しています。鳴き声の他に行動も違います。ガラスは、知能が高く人の個別を認識することができます。

緩やかな坂道を下って行くと、木の幹に、真っ黒な樹液のような

物が付いているのを探検隊のお母さんが発見しました。よく見てみると、幹のくぼみで、寒さをしのぐヨコズナサシガメの群れでした。例年では見られない新たな発見でした。

湖の畔に着くと、「崖にある、あの穴は何でしょう。」というクイズがありました。それは、敵から身を守るために、わざと崖に穴を掘ったカワセミの巣でした。カワセミを見ることができると、心を弾ませながら湖畔を歩きました。しばらく歩くと、湖面すれすれに、高速で低空飛行する鳥を見付けました。エメラルドブルーに輝く羽。長いくちばし。紛れもなくカワセミです。枝にとまっているかと思うと、あっという間に水面に向かい、小魚をくわえて飛び去ります。カワセミの機敏な動きに、子供たちは、「おう。」と感嘆の声をあげていました。

今回の親子公園探検では、家族で佐鳴湖公園の自然を満喫するだけでなく、野鳥や昆虫の生命力、そして知恵を学ぶことができました。(吉野直樹)



あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向

会員数 (2019.3.5現在)

賛助	法人	維持	理事
31	1	6	40
普通	学生	合計	
45	0	123	